

令和8年春の火災予防運動



住宅防火 いのちを守る10のポイント

4つの習慣

- 1 寝たばこは絶対にしない、させない
- 2 ストープの周りに燃えやすいものを置かない
- 3 こんろを使うときは火のそばを離れない
- 4 コンセントはほこりを清掃し、不要なプラグは抜く

6つの対策

- 1 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する
- 2 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する
- 3 火災の拡大を防ぐために、扉扉を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防炎品を使用する
- 4 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく
- 5 お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく
- 6 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

FDMA 消防庁
Fire and Disaster Management Agency
https://www.fdma.go.jp/

お問合せ先 宮古地区広域行政組合

3月1日(日)から3月7日(土)までの一週間、春の火災予防運動を実施します。空気が乾燥し、暖房機器を使用することが多いこの時期は、毎年多くの火災が発生しています。

この運動で、より一層住民の皆様には防火意識を高めていただき、火災の発生を防ぎ、尊い命と貴重な財産を守りましょう。

○住宅防火対策の推進について

全国の住宅火災による死者数は近年減少傾向でしたが、令和3年から増加に転じました。また、死者数はゆるやかに増加傾向であり、令和5年から2年連続で1,000人を超えています。そして、死者数の7割以上が65歳以上の高齢者となっています。いのちを守る10のポイントを参考に、自宅の防火に対する習慣と対策を見直しましょう。

○地震火災対策の推進について

大規模地震時に電気に起因する火災が多く発生していることから、地震時の電気火災リスクを低減するため、感震ブレーカーの設置促進に取り組んでいます。感震ブレーカーは、地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止め、電気機器からの出火を防止する器具です。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段です。

今すぐ
対策を!

地震による 電気火災 対策を!

かん しん
感震ブレーカー
が効果的です!

東日本大震災における本震
による火災全111件のうち、
原因が特定されたものが
108件。
そのうち過半数が
電気関係の出火でした。

その他 (50件)	電気関係 (58件)
46%	54%

※日本防災学会誌「2011年東日本大震災 火災等調査報告書」より作成

地震が引き起こす電気火災とは?

地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧した時に発生する火災のことです。

▲「電気火災の事例(その1)」
地震で本棚が倒れ、雑誌が電気ストーブ周辺に散乱。 ▶ 停電した状態から通電し、ストーブが作動。 ▶ 紙類に着火、火災が発生。

▲「電気火災の事例(その2)」
家具が転倒し、「電気コード」が下敷きや引張で損傷。 ▶ 通電の瞬間、コードがショート。 ▶ 散乱した室内で、近くの燃えやすいものに着火。

感震ブレーカーとは?

感震ブレーカーは、地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止めます。
【感震ブレーカーの種類】

分電盤タイプ (内蔵型)	分電盤タイプ (後付け型)	コンセントタイプ	簡易タイプ
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。 約5~8万円 (標準的なもの)	分電盤に感震センサーを外付けするタイプで、感震ブレーカーが設置されている場合に設置可能。 約2万円	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。 約5,000円~2万円	ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。 3,000円~4,000円程度
電気工事が必要	電気工事が必要	電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が不要

※1: 住宅分電盤の種類により設置を要しないものがあります。

感震ブレーカーを設置して 電気火災から「家」・「地域」を守ろう。

【この資料に関する問い合わせ先】
経済産業省消防防災庁消防施設整備グループ電力安全課
〒100-8501 東京都千代田区霞が関1丁目3番1号
TEL (03)-3501-1742
経済産業省ホームページ
http://www.met.go.jp/keikaku_safety_security/industry_safety/yokokan/2015/10/27/105-11.html
内閣府ホームページ
<http://www.bousai.go.jp/jishu/kyoto/dreikakacatoku/index.html>

内閣府 消防庁 経済産業省

2015年11月号

ゆるサイと 火災・防災 再かくにん!

近年、リチウムイオン蓄電池による
火災が増加傾向!!

携帯用扇風機
モバイルバッテリー
その涼しさと便利さ、火の用心とセットで。

断電・高温 = 危険信号

大きな地震に備えて、
『感震ブレーカー』を設置!!

感震ブレーカーは、地震の揺れを感知すると自動で電気を遮断し、過電火災を未然に防ぎます。特に、木造の家がたくさん集まっている場所など、燃え広がる危険性が高い地域では、その設置が強く推奨されています。現在、感震ブレーカーの設置率は全国でまだ一部に留まっています。分電盤タイプ、コンセントタイプ、簡易タイプなど、様々な種類がありますので、ご家庭に合ったタイプを選び、設置を検討しましょう。

総務省消防庁
Fire and Disaster Management Agency